



Upside Japan

THE TECH INSIDER

www.upsidejapan.com

! ホーム ! UPSIDEについて ! UpsideToday米国版 !

! コラム ! ビジネスモデル ! 注目の企業 ! キーパーソン ! 業界動向 ! アジア最新ニュース ! ITな暮らし !



Upside Japan / コラム



ジュニアサミットとMIT大川センター 中村伊知哉@LANTIC【第1回】

注目記事

- ・MSNが音楽配信サー
ビスに参入!
- ・ネットのコンテンツで金
は取れるのか?
- ・マイクロソフトがトラン
スマタと提携!
- ・iモードがアメリカにやっ
てくる!
- ・ハイテク株よ、底の底
まで落ちてくれ
- ・略語の山に埋もれた
B2Bマーケット



デジタル用語辞典:

検索



1999年1月4日

ジュニアサミット'98が終わって一息です。私のいるMITに54か国からティーンエイジャーが100人集まって、世界平和だとか環境問題だとか、VIPの大人たちに向かって説教たれるというか、提言かますというか、そういうイベント。'95年に東京でやったでしょ。あの第2回目です。MITのメディアラボがホストを引き受けたんですよ。

今回のジュニアサミットは、MIT構内で11月15日から21日まで開催された。公式サイトは<http://www.jrsummit.net/>。

子供たちが仕切りまくったオンライン・フォーラム

発端は、'95年2月にベルギーのブラッセルで開かれた情報通信G7でした。ゴア副大統領とか、EUのサンテール委員長とか、日本からは大出郵政大臣や橋本通産大臣が出席していました。席上、CSK - セガの大川会長が、情報ハイウェイの話すのに大人ばかりでどないすんねん子供の意見を聞かんかい、と、そういう関西弁ではないけどそういう趣旨の発言をして、それがきっかけで始まったんです。

私はそのころ郵政省からパリに派遣されてスパイみたいなことやってたので、ぶらりとブラッセルに潜入してみたんですが、大川発言に巻き込まれて手伝って、それから4年近くたって、ふと気がつけばポストンで2回目を手伝ってたというわけです。

今回のジュニアサミットに先だって、139ヵ国1000チームがオンラインフォーラムを開いてたんですが、インターネット・キッズの独立クラブになりましてね、それから一週間MITに集まって議論した際も、連中はぜんぶ自分で仕切っちゃったんですよ。提言もしっかりしてるんです。サイバー国家を作る、子供だけの銀行を作る、子供のためのコンピューターを設計する、ボクらがやります大丈夫。「お願いですからおじさんも仲間に入れてもらえませんか」寄付だけなら受け付けてあげるよ。って感じ。

ジュニアサミットに先立ち、世界139ヵ国から10~16歳の子供たち約3000人が選ばれた。子供たちは9月からの約3ヵ月間に渡り、インターネットを通じて教育・環境・平和などをテーマにオンライン・ディスカッションを重ねてきた。今回MITに集まったのは、さらにそのなかから選ばれた子供たち100人。

マサチューセッツ工科大学 = MIT (<http://www.mit.edu/>) は、米東海岸マサチューセッツ州はボストン近郊のケンブリッジ市に本拠を置く、世界最高レベルの高等教育機関。

未来に向けて投資された2700万ドル

さて、今回のサミットで大人側が用意した目玉は、“MIT大川センター”構想の発表でした。大川センターとだけ言うと一家が風呂上がりに大広間でサンバショーを楽しむ船橋あたりの施設と思いがちであります。しかし頭にMITがつきますから少し違います。これは“子供とメディア”に関する研究機関なのです。

大川氏がMITに2700万ドル、約30億円を寄付したので実現することになったんです。個人がアメリカに寄付したもとしては最大級だそうで。MITのベスト学長やメディアラボのネグロポンテ所長が発表して、ゴア副大統領からの祝辞もありました。

メディアラボの隣にビルを建てて、2003年にオープンします。ネットワークによる学習改革とか、映像メディアが子供に与える影響の研究などが中心課題になります。地球上のキッズとオンラインで共同研究していくことになるでしょう。映像、ダンス、音楽などあらゆる表現を扱っていく計画。温泉は出ないけどサンバショーはできるかも。

MIT大川センターについては、メディアラボのホームページ (<http://www.media.mit.edu/Information/98-11-18.html>) を参照されたい。

やがて子供たちはサイバー社会の支配者に!?

この分野の研究は、確かにアメリカが進んでるんですが、でも日本にも責任がありますよね、ゲーム・アニメ大国として。インタラクティブな映像表現は日本の産業がリードしてることを自覚すべきだし、日本のキッズが最先端の能力を持つてることも評価すべきでしょ。マンガやゲームの鑑識眼にかけちゃう子のガキどもは世界一のはずで、日本の資産って今それしかないと思う。その間に世界に貢献しておきたいところです。

重要なコンセプトは、“教育”じゃなくて“学習”ってことです。サイバー社会をどう生きるかなんて、大人に教える能力はなくて、子供が自分で学んで、開拓して、逆に大人はその成果を教えてもらう立場なんですよねたぶん。

子供がいけないサイトを見るのが心配なんていう親が多いけど、それはもう甘い。私をもっと心配なのは、連中が結託して、大人をサイバー社会から排除しようとするんじゃないかってことです。

「お願いですからおじさんにもそのサイト教えてもらえませんか」

パスワード欲しけりゃ子供バンクに寄付しな。って感じ。

中村伊知哉 プロフィール



マサチューセッツ工科大学 客員教授
'61年生、京都市出身。京都大学経済学部卒。

在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターで活躍。
'84年、郵政省入省。'93年からパリに駐在し、'95年に帰国後は郵政大臣官房総務課課長補佐を務める。'98年、郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就任。同年、マサチューセッツ工科大学 客員教授に就任。

著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)などがある。趣味は、ずばり“メディア”。

ホームページ:<http://www.media.mit.edu/ichiya/jpn.htm>

(C)Hajime Anzai

▶[中村伊知哉@LANTIC【連載リスト】](#)
(<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)

(中村伊知哉)

! ASCII24 ! ASCII24 Business Center ! 日刊アスキー Linux ! アスキーデジタル用語辞典 !
! auto-ASCII24 ! Shes.net ! ASCII Job Serve. ! アスキートップ !

! [個人情報の取扱について](#) ! [編集部へのコンタクト\(info@upsidejapan.com\)](mailto:info@upsidejapan.com) ! [広告掲載のご案内](#) !

Copyright (C)1993-2000 Upside Media Inc.
Copyright (C)2000 ASCII Corporation.
All rights reserved.